令和５年度小平市立学園東小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

**１　調査目的・対象**

**児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。**

２　調査内容

**（１）教科に関する調査**

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

**（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査**

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】　　　　状況の分析　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　課題

①「インタビューの場面で相手に質問する際に使用する言葉とその意図に気付く」問題では、会話の中で、質問する方法やその質問によって得られる効果についての理解が必要である。

②「漢字の読み書き」では、同音異義語や普段慣れ親しんでいない読み方、同じ「へん」や「つくり」をもつ新出漢字の定着に課題が見られる。

③「個々の情報を整理したものを理解する」問題については、文中の語句がどのように関わっているのか、関連付けをしながら正確に読むことの指導が必要である。

全体の平均正答率は東京都を１ポイント下回ったが、全国を０．８ポイント上回った。

全１４問中５問が東京都と全国を上回り、特に、資料や文章を基にして、必要な語句を抜き出し、問いに対して文章を記述する問題は、正答率が高い傾向にあった。

全１４問中６問が東京都と全国を下回った。正答率の低い問題を順に挙げると、①「インタビューの場面で相手に質問する際に使用する言葉とその意図に気付く」問題、②「文脈に合わせて漢字を適切に使用する」問題、③「個々の情報を整理したものを理解する」問題等である。

学校で取り組む具体的な改善策

①国語の学習で、インタビューや児童同士での話し合いを行う場面で、質問の方法としての話型を発達段階に合わせて示したり、その効果を指導したりする。

②漢字テストの直しを徹底するとともに、新出漢字や既習漢字を使って短文作りを行う学習活動を定期的に取り入れ、作文・ワークシート・ノート等を書かせる中でも漢字を使用するよう繰り返し指導する。

③国語で説明文を学習する際に、毎時間、ポイントとなる語句にラインを引かせたり、各段落で関連している叙述を見つけさせて記述させたりさせたり、表にまとめたりする指導を行う。また、授業や家庭学習を通して、音読指導を行い、正確に読む力を養う。

〇引き続き、読書活動に力を入れ、文字や文章に慣れ親しむ環境をつくる。

※〇は、教科全体に関連する改善策。

【算数】　　　　　状況の分析　　　　　　　　　　　　　　　　　　　課題

全体の平均正答率は東京都を２ポイント下回ったが、全国を２．５ポイント上回った。

全１６問中６問が東京都と全国を上回り、この内の４問は「知識・技能」の短答式の問題で、

①『乗法の計算の文章題』A数と計算

②『正方形の意味や性質を理解している』

　B図形

③『百分率で表された割合について理解している』C変化と関係

④『「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができる』

　A数と計算　Dデータの活用

といった内容の問題である。

一方、全１６問中８問は、東京都と全国を下回った。この内の４問は「知識・技能」、４問は「思考・判断・表現」を問う問題である。中でも以下の３つに関しては東京都よりも１０ポイント程度下回っている。

①『比例の関係を用いて、式や言葉を使って計算する。』C変化と関係（思考・判断・表現）

②『(２位数)÷(１位数)の筆算について、図を基に各段階の商の意味を考えられる』

A数と計算（思考・判断・表現）

　③『二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる』Dデータの活用（知識・技能）

　なお、以下の２問のように、本校・東京都、全国のいずれでも正答率が20％～30％と、共通して著しく課題が見られる問題もある。

　①『正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる』B図形(知識・技能)

　②『高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、理由を記述できる』B図形(思考・判断・表現)

・本校の児童が、東京都よりも著しく正答率が下回った３つの設問の特徴は以下の通りである。

①C変化と関係（思考・判断・表現）

伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかを問う問題である。二つの数量の関係について、変化の特徴を考察して規則性を見付け、見付けた規則性を基に筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにしていきたい。

②A数と計算（思考・判断・表現）

　(２位数)÷(１位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えるかどうかを問う問題である。除法の筆算について、他の学習内容と関連付けて、計算の仕方について捉え直すことができるようにすることが大切である。

③Dデータの活用(知識・技能)

　アンケート調査の結果のような二次元の表から、条件に合う数を読み取れるかどうかが問われている。目的に応じてデータを集め、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向を読み取ることができるようにすることが大切である。

・全国的に極めて正答率の低かった２問の特徴が以下である。

①B図形(知識・技能)

　正三角形の意味や性質について理解しているかどうかを問う問題である。図形の観察や構成などの活動を通して、図形の性質について考察し、示された図形の角の大きさを求めることができるようにすることが大切である。

②B図形（思考・判断・表現）

　高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題である。基本図形の面積の公式の理解を深め、活用できるようにしていきたい。

学校で取り組む具体的な改善策

①②毎週、木曜日の「ニコ学タイム」を中心に、東京ベーシックドリル等を活用して分からない学年の学習まで遡って基礎基本の定着を図る繰り返しの指導を徹底する。

③図形を扱う授業では、操作活動を多く取り入れる指導を継続するとともに、プログラミング的な思考を育む指導を行う。

④習熟度に合わせて選択肢や情報量の多い発展的な問題を積極的に取り入れ、情報を整理して思考できるよう指導する。

〇学習者用端末を含むＩＣＴ機器の効果的な活用や学習形態の工夫などで、自己の考えと友達の考えを比較したり、既習の学習内容を活用して問題を解いたり、課題解決の方法を話し合ったりする場面を多くつくることでさらに思考力や判断力を向上させる。

※〇は、教科全体に関連する改善策。

【質問紙】　　　　状況の分析　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　課題

食事や睡眠などの基本的な生活習慣は、東京都や全国と比べると整っていることが分かった。また、自己肯定感や幸福感、周囲から認められている、という意識も高い。さらに、困っている人を助けることや人の役に立つ人間になりたいと答える児童の割合も高かった。「学習習慣」に関する質問の中で、東京都や全国を大きく上回ったものは「学習で分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「家で自分で計画を立てて、勉強をしていますか」等であった。東京都や全国を下回ったものは、①「学校の授業時間以外に、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。」という質問である。「ＩＣＴを活用した学習状況」に関する質問の中で東京都や全国を上回った質問は「授業時間以外のＰＣ・タブレットの活用頻度」だった。東京都や全国を下回ったものは、②「授業におけるPC・タブレットの活用頻度」に関するものであった。「主体的・対話的で深い学び」に関する質問の中で東京都や全国を上回った質問は「授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」等であった。その中で③「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」の質問への回答が東京都や全国を２ポイント下回った。

　生活習慣や自己肯定感、学習習慣等については、家庭と学校の連携ができているが、今後も維持できるよう啓発を続ける必要がある。課題については、以下に３点挙げる。

①他の項目への回答から、児童が図書館を利用する頻度は高く、多くの児童が週に１回以上、地域の図書館を利用しており、また、家庭で本を所持する冊数も多いという実態が分かった。本に触れる機会は多いので、課題としては、児童がより長い時間、読書をする習慣を身に付けることに具体的な手立てが必要であると言える。

②他の設問項目から、「ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器の使用が学習に役立つ」と考えている児童は、やや少ないという結果が出た。頻度について考慮しながら、その内容の充実や効果的な活用についても重視していく必要がある。市から一人一台貸与されている学習者用端末をさらに効果的に活用することで、児童の意欲と学習効果をより一層高めていくことが課題である。

③児童が授業で「主体的に自分から学び、他者と関わる中で学びを深めている」と実感していることが分かるが、学習内容によっては、話し合う活動の時間の確保が課題となっている。個人で考えを深める時間や周囲と意見を交流する活動を意図的に設定し、児童がより多面的に視野を広げて考える時間を確保する。

学校で取り組む具体的な改善策

①朝読書の確実な実施やブックトークの充実に加え、学習の中で図書室を利用した読書時間を確保したり、長文の図書を紹介したりする等して、児童に本の魅力を伝えたり、読書の習慣を身に付けさせたりする。また、家庭での読書の大切さを学校だよりを通して、各家庭にも伝え、読書の意義や習慣化する方法、おすすめの図書を紹介していく。

②学習者用端末の効果的な活用について校内研究を進めるとともに、新たに導入されたソフトの活用方法を職員で共有する。日々の授業や特別活動、家庭学習（持ち帰り）等で活用していく。また、各学年の活用事例を校内研修を通して、共有し、さらなる充実を図る。

③道徳など、自分の行動を振り返ったり考えを深めたりする機会の多い活動では、個人で考える時間を確実に確保する。さらにそれらの考えや意見をペアやグループで、お互いに交流する時間を設定する。